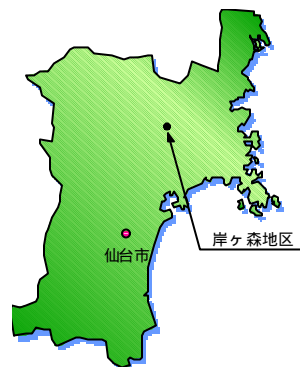


特集：おらほの農地集積

岸ヶ森地区

地区の概要

事業名	ほ場整備事業（担い手育成型）	担い手農家	4戸
関係市町村名	涌谷町		1組織
関係土地改良区	旧迫川右岸土地改良区、		(H14より3組織)
工期	平成10～17年度	担い手経営面積	
受益面積	112.8ha	実施前	23.5ha
総事業費	1,565百万円	H13年度	36.1ha
組合員数	126人	担い手農地	
		集積増加率	50.0%(H13)



岸ヶ森地域づくりプロジェクト発進

近年、ほ場整備事業に合わせ、地域における営農改善を図る様々なソフト事業が創設され、各農家の営農希望に即した営農改善支援や各種新技術の導入などの推進が望まれており、モデル地区を定め集中的に支援することが必要と考えられることから古川産業振興事務所は、この5月に岸ヶ森（涌谷町）地域づくりプロジェクトを創設した。

プロジェクトのねらいは、ほ場整備を契機に新たな営農を短期に実現、農業農村活性化の実践、農地流動化の集中支援、事業費のコスト削減の実践、ほ場整備のPRの5項目からなり、地域と関係機関が一体となり地域のニーズに対し、そのノウハウを持った関係機関の専門家が積極的に支援していく。

例えば、ほ場整備事業全般では古川産業振興事務所、涌谷町、旧迫川右岸土地改良区、営農指導や作目の栽培管理はJAみどりのと小牛田農業普及センター、換地に関しては土地連の換地センター、また、集積事業に関しては県農業公社と土地連農地集積指導センターといった具合にありとあらゆる方向から集中的に指導・支援し地域が地域住民の意とする方向へより活性化することを目的としている。

既に、8月11日「みんなでかたろう地域づくり」と題してミニフォーラムを開催、9月16日には「ほ場整備とはなんだ」と題して地域の子どもたちと親しむ会などのイベントを開催するなど、ほ場整備事業を契機としたあらたな岸ヶ森の地域づくりに向けてスタートした。

組織結成のきっかけはカントリーエレベーターの建設でした（オリザK）

こう語ってくれたのは涌谷町岸ヶ森地区の生産組織オリザK（担い手）で組合長を務める日下克郎さん（52才）。

日下さんたちが涌谷町にできたカントリーエレベーターの刈り取り集団として9名のメンバーと共に機械の共同利用を目的とした農業生産組織オリザKを設立したのは平成9年8月。オリザとは、ラテン語でOryza、稲を意味し、当時河北新報の特集記事で「オリザの輪」（'96-10-27～'97-6-24、全138編を連載）というのがある、この記事に共感するものがあったこと、短くてわかりやすいことからオリザK（岸ヶ森）と命名したそうだ。

日下さん自身、オリザKを設立するまでは主に米山町に農地を持つ涌谷町の農家で組織する岸ヶ森生産組合で組合長を歴任するなど10年間、その組織経営に携わってきており、組織であることの長所や欠点については十分理解していた。

涌谷町にカントリーエレベーターができるのであれば、自分達にはミニライスセンターのような施設はいらなかったそうだ。

設立当初に経営近代化施設整備事業における地域連携体制支援施設整備事業を活用し、汎用コンバインをリースした。その後、徐々に作業機械を増やし今では汎用コンバインを始め8種類の機械（表）を保有している。

オリザKの9名のメンバーの平均年齢は47～48才、メンバーの全てがよそに仕事を持つ第2種兼業農家ばかりだそうだ。日下さんも米山町にあるコンクリート会社に勤務するサラリーマンである。今はまだメンバーの平均年齢は若い、10年後には組織にとっても後継者の問題は切実なものとなってくる。



日下さんには、息子さんはいるが、その息子さんがはたして農業を継ぐかどうか分からないという。このことは組織のメンバーにとっても同じような傾向だという。日下さんは、組織の後継者がなにも自分達の子供でなくてもよい。極端なものはなし、農業が好きなら都会から新規就農を希望してくる人でも構わないとさえ考えている。今は、個々の農家が後継者のことを考える時代ではなくなってきている。地域や町全体のレベルで考えるべきだという。「政策は町単位で、営農は個別で……」ということではいけないと、はっきり言い切る。

近い将来、オリザKも法人化を目指すことになるだろうが、法人になっても利益優先主義に走らず、地域との信頼関係を最優先に、地域に根付いた組織経営をしたいという。

オリザK設立の翌年度（H10）に採択された岸ヶ森地区の担い手を引き受けたのにも、日下さん達のこんな経営理念があったからだそうだ。

今のところ工事施工の関係から、ほ場整備の事後転作だけを請け負っているが、来年からは新たなほ場での稲作の農作業も受託していく予定でいる。いよいよ日下さん達メンバー9人の本領が発揮される年でもある。

なによりも出し手農家の栽培管理や経営形態の意向に添った作業に心がけて、”オリザKなら安心して自分の田んぼを託せる”という地域からの信頼を不動のものにしたいと、これからの組織経営について意欲満々応えてくれた。

表 農業機械の保有状況

機種名	台数
汎用コンバイン(6条)	1台
トラクター(64馬力)	1台
アップカットロータリー(2m)	1台
代掻きハロー(3m)	1台
ドリルシーダー(6m)	1台
プロットカスター	1台
サブソイラ	1台
ロータリーカルチ(3条)	1台
溝掘機	1台

新たな地域づくりに向けて

岸ヶ森の明日に向かって
- ほ場整備により豊かな地域へ -

岸ヶ森工区
脇工区
針田工区

平成13年度土地利用計画
 ■■■■■ 基幹工種実施済み区域
 ■■■■■ オリザK 32.1ha
 ■■■■■ 個別担い手 4.0ha

岸ヶ森地区では、今後、脇と岸ヶ森東集落にそれぞれ迫、21世紀転作組合（既存）を活性化計画に追加し、新たに地区の担い手に位置づけ、集落単位での転作のブロックローテーションを実施しようとしている。

また、脇集落には育苗を主体とするハウス団地を設置し、地域の水稲育苗の跡地利用として地域内の園芸振興作物となっているほうれんそうやしゅんぎくなどの軟弱野菜等の導入を検討している。

しかし、これらの取り組みを具体化する上で、事前に処理しておくべき課題も山積している。

例えば、転作組合の運営についてである。今は転作組合として経営が成り立っていても、国の生産調整に伴う補助が無くなった場合を考慮し、将来は水稲を含めた経営の多角化や担い手に農地を集積した場合の出し手農家のメリット、出し手農家が所有している農業機械の処分方法などである。

まさに、岸ヶ森地区はほ場整備を契機として新たな地域づくりに向けて走り始めたばかりと言える。

- 問い合わせ先 -

〒987-0192 遠田郡涌谷町字新町裏153-2

涌谷町産業振興課

TEL.0229-43-2111 FAX.0229-42-3313